

## 大震災の発生と影響

3月11日に発生した東日本大震災は日本に非常に大きな打撃を与えました。九州にとっては新幹線全線開通で喜ばしい時に大地震が発生し、状況が一変してしまいました。

今回の大震災による被害からの復興は一自治体や県だけでできるような話ではないと思います。被災地支援として現地での生活を体験した中山参事(総務課)と宮崎主事(住民課)からの報告では、全国から派遣職員が集まり復興支援業務を行ったが、被災者や遺族の方の実際の声を聞き、大変心が痛む業務となったそうです。

今回は他の自治体が被災地の自治体を支援するなど、自治体間同士の連携が図られました。これにより自治体間同士の強い絆が築けたのではないかと思います。日本が一つにまとまったのではないかと感じましたね。

### 理想の防災体制

私は市町村合併はしたくないと考えています。なぜなら災害などが起こった際に指揮者が的確な指示を出せるかどうかが不安だからです。もし合併すると指示を出す範囲が広範囲に渡ってしまいますから、どうしても指示が遅れてしまったり、判断が遅れてしまうのではないかと思います。私は指示を出す機能が住民の身近にいくことが安心安全につながるのではないかと考えています。

自主防災組織も被害を抑えるためには必要不

可欠となってきます。どの世帯が高齢者世帯なのかなどの各世帯の情報をまとめたマップを作成するなどして、各組織が地域の現状を把握し、河川氾濫や崖崩れ、津波などのさまざまな災害状況に合わせた体制をすぐに組めるように日頃の訓練が重要になってきます。

### 『くだろう』行動の危険性

今回の大震災において被害が拡大した要因の一つとして『くだろう』行動があったのではないかと思います。「対策がしてあるし今までも大丈夫だったから、今回も大丈夫だろう」と安心しているところに今回の災害が訪れました。「津波がくるかもしれない」といった『くもしれない』行動を災害時には心がけて欲しいですね。

### 災害に備えてできること

本町には各世帯への情報伝達方法として有線放送があります。原始的な方法ではありますが、外で風雨がひどいときでも屋内で安全に情報入手できることが利点で

## 西川町長 × 中山忠&宮崎崇



す。あとは危険箇所を詳しくまとめたハザードマップの作成も必要です。各世帯に配布はしてありますが、なかなか活用できていません。これらを有効に活用して被害を抑えたいですね。

また、これからは個々の意識づけも重要になってきます。災害が発生したらどのような被害が出るか、何が必要になるのかを考え、それらに対して日頃から備えをしておく必要があります。自分の地域の地理条件を分析し、各種災害へどのように対処すればいいのかを把握しておくことが自分自身だけでなく周りの人を守ることにもつながると思います。



津奈木町長  
西川 裕